

ウムチョ ムウイーザ通信

No. 5

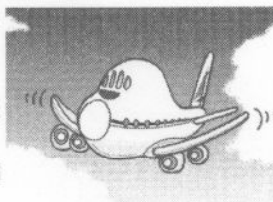
(臨時増刊号)

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

2003年7月23日から8月19日の間、ルイズのハズバンドのアポリネールさんと、次女のルーシーさん、本会会員で小学校教諭の野地順子さんがルワンダを訪問しました。

福島駅を出発するルーシーさんの肩には、南こうせつさんからプレゼントされたギターがしっかりと掛けられていました。

今回は、三人の『ミニミニ報告』をお届けします。後日、完全版「ルワンダ訪問紀行」を作成し、完成したい希望者にお配りいたします。お楽しみに！

**アポリネールさんの報告**

Q (滞在中、一番うれしかった事は?)

A 帰国が迫った日に、市長さんや教育委員会の人、子供達の親や地域の人を招いて、お別れ会をかねた発表会が開かれた。そこで、子供達は、野地先生に教えてもらった折り紙で学校を飾り、合奏をしたり、工作を発表したり、英語、フランス語、ルワンダ語、日本語で挨拶をしたりした。

その様子を見ていた市長さんが、挨拶の中で、「私は教師の資格を持っているが、この学校は、とても素晴らしい、よその学校に負けない素晴らしいカリキュラムで教育されています。その事は私が保証します。」と言ってくれた時、親達からは大歓声があがり、とても喜んでた。私達の学校が、こうして認められるようになったことがとてもうれしかった。

Q (滞在中、心に残った事は?)

A 私には、ルワンダを離れて、アメリカやヨーロッパで暮らしているルワンダ人の友人が何人かいる。彼らはかなり高い賃金で働いており、私達に比べるとかなり良い生活をしているし、貯金も出来ているようだ。私は今、日本にいて、とても安い賃金で働いているため、貯金も出来ないでいる。しかし、そんな事は、問題ないことだと思う。ウムチョムウイーザ学園が、ルワンダの人々にこれほど喜んでもらっているのを見て、私達は、祖国のために大きな貢献をする事ができたのだと実感でき、とてもうれしかった。よその国で働いているルワンダ人で、祖国のために、このような貢献をしている者は、誰もおらず、私達だけなのだ。そのことをとても誇りに思う。これも、日本の皆さんと出会ったおかげで、とても感謝している。

限られたスペースの中には、とても入りきらない報告をいただきました。今回は、聞き手1の心に残った2点をご紹介します。

Q (ルワンダに着いたときの感想は?)

A ルワンダのみんなに会ったとき、久しぶりなので、恥ずかしかったけれど、うれしくて、涙が止まらなかった…。ああ帰ってきたんだなって感じた。

Q (ウムチョムウイーザ学園を見た感想は?)

A すごいなぁと思った。今までママ達が、講演に行ったりコンサートをしたりして集めたお金で、こんなふうに学校が出来たんだと思って感動した。

ママが活動をする時、お留守番が多くて大変だったけど、これからはもっとお手伝いとかして協力していこうと思った。

Q (ルワンダの子供達はどうか?)

A すごく活き活きしていて、かわいらしかった。日本の子もかわいいけど、何か違うものが、ルワンダの子にはある気がした。チャールズ校長先生が、私のことを「ルワンダ語はほとんど忘れてるけど、仲良くしてください。」と紹介してくれて、みんなもすぐニコニコして抱きついてきてくれたり、「一緒にランコしよう。」って声を掛けてくれてうれしかった。「私も日本に行ってみたい。」と言っている子もいた。

Q (ルワンダで生活した感想は?)

A 水が出なくて、たらいの水でシャワーの代わりにした時、日本では、当たり前に使っていた水の大切さを勉強した。日本にいと、何でもあって、贅沢な生活をしてたんだなって思って、モノの大切さやすばらしさをわかった気がした。日本に戻って、普通の生活を始めて、少しそのことを忘れかけていたから、これからは、お手伝いとかすすんでやって、ママを助けていきたいと思った。

ルーシーさんの報告

ルワンダ体験記

野地 順子

7月23日から8月19日までの4週間を、ルワンダで過ごしてきました。

「電気はあるの?」「お風呂はどうするの?」「生水は飲まないように。」「マラリアにかからないようにね。」などの、同僚達のありがた迷惑なアドバイス等に不安になりつつも、わくわく♡ドキドキ♡の気持ちで出発しました。(※お世話になったルイズさんのルワンダの家には、電気もシャワーも水洗トイレもありました。)

タイのバンコクでのトランジットの24時間をふくめ、エチオピアを経由し、3日がかりの行程で、やっとつきました。

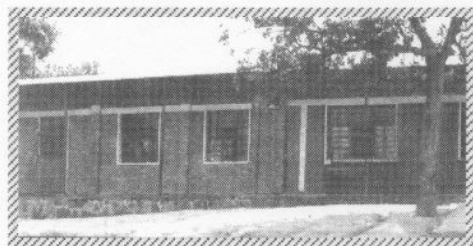
いざついてみると、ルワンダの気候は、聞いていた通り、昼は暑いですが、朝晩は涼しく、湿度も低いので、予想以上に過ごしやすかったです。

そしていよいよ、初登校。トラックの助手席に座って、トラックに揺られること約20分。

銀色の屋根に、黄色い煉瓦の壁、
青い窓枠、青いドア。

おお、我らが

♡ ウムチヨムウイザ小学校。
やっと来たよー。



と、ちょっと感動に酔いしれる私。

初日の授業は、「自己紹介と日本の紹介」といっても、私は、ルワンダ語もフランス語も全く分からないので、アポリネールさんが通訳です。(※これからルワンダに行ってみたくて思っている人、ルワンダ語を勉強しましょう。)
「桜」「富士山」「新幹線」「ビル」「寺」などの写真を見せながら説明しました。小学生達や近くに住む保護者達も、興味深げに話を聞いてくれました。ちなみに、アフリカの最高峰キリマンジャロ(5,895m)は、富士山(3,776m)よりずっと高いそうです。

二日目から、音楽や図工の授業を行いました。学校には、日本から送られた鍵盤ハーモニカしか楽器がないと聞いていたので、カスタネット、鈴、トライアングル、そして、日本の子ども達から寄付してもらったリコーダー(たて笛)を準備していきました。



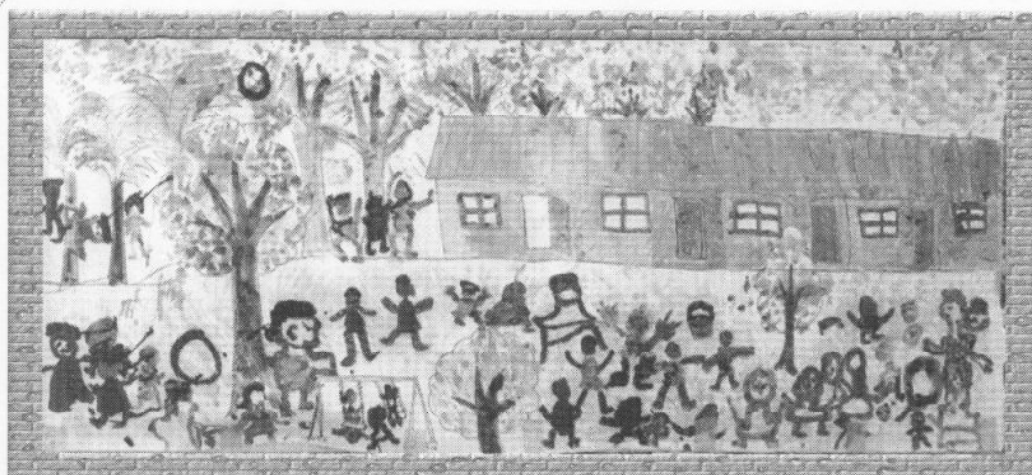
音楽は、日本の小学校1・2年生が学習している曲の、リズムうちや簡単な合奏、歌の指導を行いました。初めてカスタネットや鈴を持った子ども達の顔は、真剣そのもの。私の「1・2・3・はい。」のかけ声(日本語)に合わせて、3拍子のリズムをズン・チャ・チャ、ズン・チャ・チャ。初めは、なかなか合いません。すると、アポリネールさんがルワンダ語で、「ノーノー、リムエ、カビリ、ガタツ。」と通訳してくれて、もう一度。今度はちゃんとできました。

ルーシーも、私のアシスタントとして、楽器の持ち方・音の出し方のお手本を、子ども達に見せてくれて大活躍でした。

さて、今回、張り切って持っていったリコーダーですが、指使いがかなり難しかったです。でも、先生達は、かなりできるようになりました。たった2〜3回の指導なので、子ども達がシとラの音を出せるようにがんばりました。どの子もあきらめず、練習を続ける姿には、感動させられました。今後も、継続して指導できたらいいと思います。



南こうせつさんから送られたギターです。



力を合わせて描いたウムチョムウイーザ小学校

図工では、絵の具や筆を準備していきました。絵の具を見るのも、使うのも、初めての子も達です。どんな絵を描かせようかと悩んだあげく、ウムチョムウイーザ小学校の様子を、みんなで描くことにしました。下絵は私が描き、ルーシーがペンで線を描きました。先生方が学校の色を塗り、子ども達は学校で遊んでいる自分自身を描きました。子ども達は、ブランコに乗っていたり、木登りをしていたりする自分の様子を、とても楽しそうに描いていました。この絵は、日本に持ち帰ってきましたので、みなさんにご覧いただく機会があるかと思ひます。



また、折り紙を切つてのりで貼り、飾りを作りました。ルワンダでは、折り紙は貴重品で、子ども達が自由に使うことはあまりないそうです。授業で作った飾りは、お別れ会の時に飾り付けとして使いました。

先生は、
ルイスさんの
妹さんです。



そして…



できたよ！



このように、ルワンダの子ども達のやる気にみちたキラキラした瞳に励まされながら、一週間の指導を終えることができました。充分とはいえない指導及び内容ではありましたが、もう一度ルワンダの子ども達に教えたいという、新たな目標ができました。

そして、あり余るほどの物に囲まれている日本の子どものことを考えると、このルワンダの子ども達にも、もっといろいろな学習用具を使って学習させたいという思ひを強くしました。



小学校の前のキャベツ畑



家畜飼育による自立支援事業の様子

お知らせ

私ども、NPO法人ルワンダの教育を考える会では、福島県よりNPO法人の認可を受けました2001年8月6日から、2002年9月末日までの間に使用いたしましたパンフレットに、ウムチョムウイーザ学園の記念すべき仮開校の日の記念写真を使用いたしておりました。その際、横浜に拠点を置いて活動されている『アフリカ平和と再建委員会 (Africa Reconciliation Committee: ARC)』の現地スタッフが写っておりましたが、ARCの許可なく、また、説明文もつけずに使用した事を、過日、ARCに対して謝罪いたしました。

私どもは、このことから肖像権などの問題が発生する事になるという認識がありませんでした。今後、このようなことを二度と起こさないよう努力する事を肝に銘じて、これからの活動を進めていく所存でございます。

一方、ARCにおかれましては、現在、「ARCルワンダ奨学基金」を募集なさっています。その募集に当たって使用されているチラシには、ウムチョムウイーザ学園の子供達が写っている写真を使用しています。写真の使用について、私どもにはまったく知らされておられませんでしたし、また、何の説明文もつけていらっしゃいません。

さらに、ウムチョムウイーザ学園と「ARCルワンダ奨学基金」との関係についてARCに問い合わせたところ、募集している「ARCルワンダ奨学基金」は、ウムチョムウイーザ学園とは何ら関係ないという回答で、奨学金をウムチョムウイーザ学園の子供達が過去において供与された事は無く、将来的にも供与する予定はないとのことでした。

実際には、ARCからは、ウムチョムウイーザ学園の開校当時、15脚の机と椅子をご寄付いただいたことがございます。また、昨年は、ARCがADESOC（私どものパートナーである現地NGO）支援ということで、立正校成会より一食基金の助成を受けられ、ADESOCに、直接、5,000ドルの送金をいただいたことがございます。改めて御礼を申し上げなければなりません。しかし、現在は、ADESOCに対する支援は一切なされておらず、今後の協力予定もないという言質をARCからいただいております。

就学の機会を待ち望んでいる子供達は、ルワンダ国内ではウムチョムウイーザ学園の他にもたくさんいます。そのような子供達のためには、ARCにはさらなる活発な活動を進めていただきたいと存じます。ただし、今後は、ARCの活動に直接関係ないウムチョムウイーザ学園及び子供たちの写真を広報物に掲載する事は、やめていただきたいということを申し入れさせていただきました。

福島県にお住まいの皆さんは、「ルワンダ奨学基金」と聞くと、ルイズさんの学校の支援になると勘違いなさる方が多いと思いますが、「ARCルワンダ奨学基金」とウムチョムウイーザ学園は何ら関係ないことをここに明記させていただきます。

◇ 会費は下記へお願いします ◇

正会員 5,000円

賛助会員 10,000円

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



ルワンダへ
行ってみよう！
と思っ
ている方は、どうぞ
お気軽にお知らせ下さい。
お待ちしております。

編集後記

今回は、臨時増刊号です。
三人の「ルワンダ訪問紀行
(ミニミニ報告)」を皆さん
にお届けします。



ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 カンベンガ・マリルイズ

〒960-0466 福島県伊達郡伊達町字根岸5-11

TEL/FAX: 024-583-5345

e-mail: umuco@smail.plala.or.jp

「夢に締め切りをつける」

NGOの活動を進める上で大切な事のひとつとして、昨年のマネジメント講座で学んだ言葉です。私達の夢の締め切りは、1年間に2教室を造ること。30年後には幼稚園から大学までを備えた総合学園にすること…。夢の締め切りに向かって、走り続けて行きましょう！

(飯高 千恵子)

